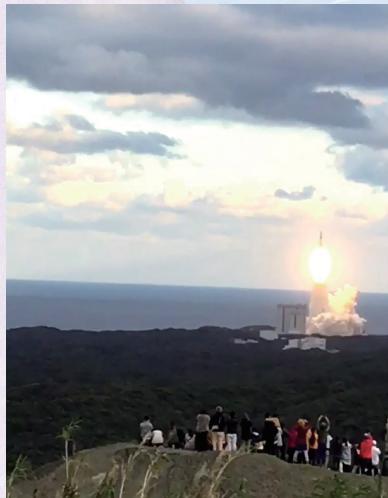


隼人族の森を渡る風

創造の現場から 第49回 上床 利秋



11月29日に種子島で打ち上げられた光データ中継衛星を搭載したH-IIAロケット43号機(筆者撮影)



12月6日のTVニュース映像

かつてアポロ11号が膨大な予算を背景に、今から思えば未熟なコンピューターを使って生きた人間を月に立たせたのも、人類の英知と科学の象徴だ。けれども地球から操作して、より安全にミッションを成し遂げる日本の技術はある意味ではこちらの方が凄いことだと私は思う。その着地点に旗を立てることに意義を持つべきではない。

現代の華々しい日本の宇宙開発は一重に糸川英夫博士の功績によるものが大きい。いまの宇宙開発事業が光を浴びることが出来るのも、やはりその礎を築いた博士の失敗の連続に負けない根性があったからに違いない。そして、博士を周辺で支えたのは内之浦の地域住民たち、とりわけ主婦の方々の応援だったことが資料に残されている。

急ぐ意味などない。莫大な予算是作れなくとも、先人や他国に学び、そして新しい境地を拓くことこそが日本の文化である。夏の夜空を彩る各地の花火大会は、何回見ても美しいもの。でもこの予算を少しだけ削つてその分を宇宙開発事業に寄与すれば、ロケットが帰還する一筋の光線の軌跡に人々は研究者の苦労を理解し、美しい思い出として印象的にまぶたに焼き付くのではないだろう。そして生涯忘ることはないだろう。

改めて日本の宇宙開発事業団にエールを送る。

日展会員 白日会会員 日本彫刻会正会員

先日、種子島で国産ロケットの打ち上げを直接見学するという機会に恵まれた。私が体験したのは二回目で、実に約三十数年ぶりのことである。

最初の記憶では、打ち上げの瞬間、周辺は強い光線で真っ白になり、光の塊が徐々に上がるにつれて、「ゴゴゴゴゴ」と凄まじい音が自分に襲い掛かってきたのを覚えていた。

今度もまた、そうであるかと思つていたが、私にとっては想定内で、順調に飛んで上がったように見えた。初めての人たちはそれでも強烈だったことが、一緒に見た仲間たちの感想で感じられた。

音や光が昔の自分の記憶に比べて小さかつたのは、印象がデフォルメされて残っていたこともある。しかし、それよりも科学の進歩があつて、少ないエネルギーで推進力を増してきていると考えるべきだろう。西之表市在住の知人が

数日後、「はやぶさ2」が無事ミッションを全うして小惑星リュウウガウのサンプルを採取したカプセルを地球に届けられたという偉業をテレビが放映していた。本当に凄いことを日本の科学者たちはやつてのけたものである。

オーストラリアの夜空を一本の流れ星のような光線になってカプセルが帰還するニュース映像には思わず目を見張つてテレビに釘付けになってしまつた。

島民はちょっと打ち上げに慣れすぎてしまつていて、「ドードーン」という音が聞こえてきたら、「あれ、今日はロケットの日だったんだなあ」と思うくらいで、農作業の手をしばらく止めて空を見る程度だ、という話をしてくれた。なるほど、そうかもしないなあと思うことだつた。

「はやぶさ2」ミッション成功を喜ぶ

た。

かつてアポロ11号が膨大な予算を背景に、今から思えば未熟なコンピューターを使って生きた人間を月に立たせたのも、人類の英知と科学の象徴だ。けれども地球から操作して、より安全にミッションを成し遂げる日本の技術はある意味ではこちらの方が凄いことだと私は思う。その着地点に旗を立てることに意義を持つべきではない。

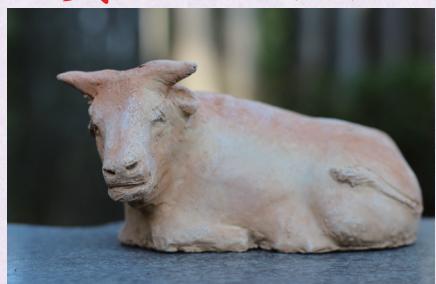
現代の華々しい日本の宇宙開発は一重に糸川英夫博士の功績によるものが大きい。いまの宇宙開発事業が光を浴びることが出来るのも、やはりその礎を築いた博士の失敗の連続に負けない根性があったからに違いない。そして、博士を周辺で支えたのは内之浦の地域住民たち、とりわけ主婦の方々の応援だったことが資料に残されている。

ホーメージ刷新しました。
<https://douzou.jp/>

このページのバックナンバーも
カラーで読むことができます。

賀正

本年もどうぞよろしく
令和3年元旦



筆著作 千支テラコッタ

レモン画材絵画教室 ご案内



- 隔週水曜日 10:00～ 油絵・水彩教室
- 隔週土曜日 16:00～ 油絵・水彩教室
- 隔週日曜日 16:00～ テッサン
- 隔週土曜日 ①10:00～ 子供絵画教室
②13:30～
- 1月1回第2火曜 10:00～ 和紙ちぎり絵教室

お申し込みはTEL 0995-45-1015 国分進行堂・レモン画材まで